令和6年度

阿波中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

①基礎基本を徹底し，主体的に取り組むことができる生徒の育成

②思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫

③学びを人生や社会に生かそうとする力の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長　岩野伸哉	教頭　河野昌紀
	教務主任	根東英司
教諭　福田一博	1年主任	森輝代
（研修主任）	2年主任	森脇和美
宮島大輔	3年主任	吉本公子

校長

岩野　伸哉

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等，様々な機会を捉え，取組状況の把握を行う。

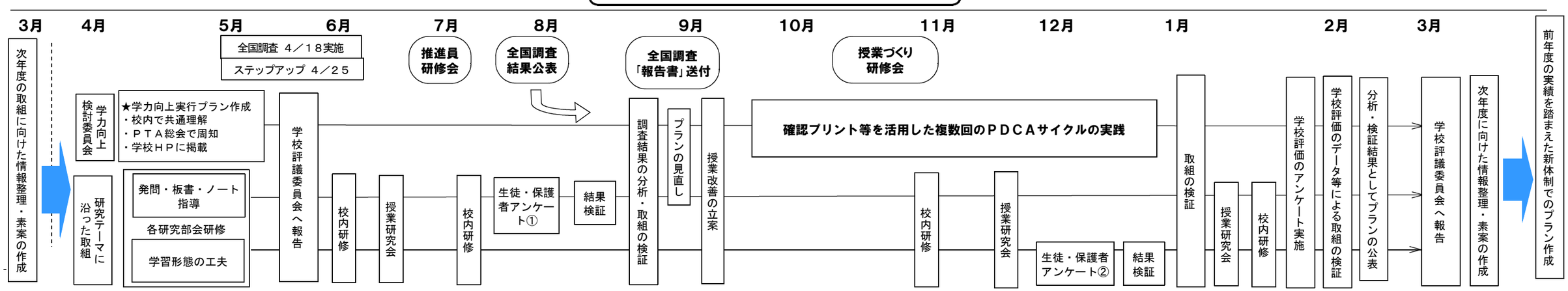
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○落ち着きのある授業態度で、意欲的に取り組めている。与えられた課題もほぼ期限内に出すことができる。 ●学力の二極化が見られる。学習習慣が身についていない生徒も多く、小テストや単元テストなどの基礎的な内容のテストでは点が取れるが、広範囲の応用力を試されるテストでは正答率が低い。	・学習内容の定着を図るために復習する時間を確保し、繰り返し学習することができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が既習の知識と関連付けられ、各教科間で連動させたり生活の中で活かしたりすることができる。 ・計算力や読解力を確かなものにすることができる。	①他学年・他教科の教員が相互に授業参観を行い観点（導入・展開・振り返り・発問・板書など）を決めて参観し、授業力を高める。 ②テストや小テストの振り返りを実施し、どの場面でつまずいているか認識できるようにし、正答率が低い問題は再度挑戦させる。	・セミナーテストを活用し、勉強の仕方を身に付けさせる。	・教員が相互に授業参観を行うことにより、他の教員の効果的な取組を学ぶことができた。各教員がそれらを取り入れることで、授業力の向上に繋がっている。 ・問題を精選し、振り返りのテストや小テスト、セミナーテストを繰り返し実施できた。具体的な到達度を示すことで学習意欲を高めることができた。	・メンター研修で授業力の向上などについて研修したり、教科研修を定期的に設けたりして指導力の向上に努める。これまで通り、教師間の授業参観は継続していく。 ・学力の二極化に対しての研究をする。 ・振り返りのテストや小テスト、セミナーテストを計画的に実施して、学び方を身に付ける。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○話すことや書くことを通して自分の意見を表現することができたり、他者の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。また、ペアやグループ学習にも協力的で友達との学び合いや教え合いなども行うことができる。 ●既習の内容を答えることはできるが、思考をはたらかせ、根拠を明らかにして説明することができる生徒が少ない。	・文章を根気強く読み、内容を理解することができる。 ・自分の考えを的確にまとめ、相手が理解できるよう、わかりやすく説明したり、発表したりすることができる。 ・話し合い活動等を行う中で、他者の考えや新たな知識を取り入れ、自分の考えをより深めたり、修正したりすることを通して、新しい考え方を表現することができる。	①学んだことをまとめたり、根拠を明らかにして説明したりする時間を授業の中で確保する。 ②授業の中でわからないところを認識させ、それを解決できるよう、ペア・グループワークやICT機器を効果的に取り入れ、双方向での学習活動を行う。 ③学力向上確認プリントなどの活用問題を授業で行う。	・新聞記事を掲示し、周知するとともに授業で活用する。 ・朝読の時間に「あわっ子タイムズ」を読む時間を確保する。	・総合的な学習の時間や道徳の時間にペア学習や班活動を行い、話し合いやプレゼンテーションの技能は身に付いてきている。 ・教科の学習においては、文章の読み取りが浅かったり、説明する語句が具体的でなく単調に終わったりすることがある。学んだ知識・技能を実際に活用できる自己表現の機会を増やしていく必要がある。 ・確認プリントの扱いは十分な機会をもてなかった。	・行事と各教科の横断的な取組を行い、表現力を高める。 ・ペア学習や班活動で効果的な教え合いができるよう工夫したり、スモールティーチャーを育成したりする。また、課題をまとめたり、語彙を増やす活動を取り入れる。 ・これまで通り「あわっ子タイムズ」を活用し、粘り強く読ませる。 ・学力向上確認プリントを活用する。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業や毎朝のセミナー学習、読書の準備の取り掛かりが早く、集中して取り組むことができ、新しい知識の習得に意欲的な生徒が多い。 ●自ら課題を見つけて目標を設定し、主体的に学習に取り組める生徒は少ない。 ●難しい問題になったときに、解決していこうという高い意識を持っている生徒が少なく、諦めてしまう姿が見られる。	・家庭学習で既習事項の確認を主体的に行い、自分の苦手なところを自覚し、わからないこと をわかるようにしようと努力することができる。 ・自分で解決できない課題に対して、教員や友人の力を借りて解決しようとすることができる。 ・わからないことに対しても粘り強く考えて取り組むことができる。	①連絡黒板に準備物だけでなく学習内容を書くことにより見通しをもたせる。また、適切な分量の課題を設定し、家庭との連携を図りながら、家庭学習の定着に繋げる。 ②ふりかえりシートを活用して、授業の振り返りを行い、自己評価や感想を書く時間を設定する。 ③わからないところの質問時間を確保したり、家庭学習へとつなげたりする。	・テストの日を目標日に設定し、逆算した具体的な計画を立てさせ、先の見通しをもたせる。	・授業の前後に本時の課題や次時の取組について伝えたり、帰りの学活で授業内容を確認したりするなど、授業の見える化を図り、見通しを持って授業に臨めるようにした。提出物の確認等で、家庭学習の定着を促したが、確保できていない生徒が若干名いる。 ・必要に応じて、ワークシートや振り返りシートを効果的に活用することができた。 ・質問時間を確保し、SWPBSを意識して生徒の支援を行った。	・定期テストに向けて、学習計画を立てさせ、実行させ、三者面談に活かしていく。 ・毎時間、学習内容と達成目標を明示し、見通しを持って授業に取り組めるようにする。また、適切な分量の課題を出すことにより、家庭と連携して学習が進められるようにする。 ・学習班で教え合いの時間をつくる。その際、教員は適切なタイミングでアドバイスをするよう心がける。

令和6年度　学力向上ロードマップ